

平成30年12月6日発行

主な内容

- P1 会長就任ご挨拶
- P1~3 第44回金ヶ崎町社会福祉大会
- P3 第71回岩手県社会福祉大会
- P4 福祉作文入賞者
- P5~6 福祉作文最優秀作品
- P7 トピックス
- P8 寄付の報告
トヨタ工場見学

かねがさき 社福だより

2018年 第234号



「木久蔵流 笑うが一番」 笑って 健康になる講演会!!

会長就任ご挨拶



金ヶ崎町社会福祉協議会

会長 小野寺 正徳

この度、前会長 佐藤 惇 氏の後をお引き受けすることになりました。よろしくお願ひいたします。

社会福祉協議会の諸事業に対しまして、皆様方のご支援・ご協力をいただいておりますことに、心から感謝と御礼を申し上げます。

就任して一ヶ月ほど経ちましたが、社会福祉協議会の事業は多岐にわたり、その多くが、ボランティアをはじめ多くの皆様に支えられていることを、改めて実感いたしました。

現在、少子高齢化の進展、人間関係の希薄化等により、ニーズも多様化してきており、このような中、社会福祉協議会の役割や期待も大きくなっていくものと思っております。

当協議会としましては、基本理念である「誰もが健やかで安心して暮らせる地域づくり」の実現を目指し、役員が丸となって、地域福祉の推進に努めて参ります。

皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

第44回金ヶ崎町社会福祉大会開催

11月7日（水）、中央生涯センターで「第44回金ヶ崎町社会福祉大会」を開催し、ご来賓をはじめ町民や福祉関係者など約280名の皆様にご参加いただきました。

三ヶ尻幼稚園の元気いっぱいのお遊戯「ソイヤ」のオープニングアトラクションで幕を開け、社会福祉やボランティア活動で功労のあった17名と寄付活動に貢献した2名2団体に表彰状や感謝状の授与、伝達を行いました。受賞者を代表して高橋イク子様からご挨拶をいただきました。

その後、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを地域とともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指す「大会宣言」が、満場の拍手で採択されました。

第二部では、「笑うが一番」というテーマで落語家の二代目 林家木久蔵氏に笑い与健康の関係について、軽妙な話芸でご講演いただきました。ユーモアをまじえながら会場を大いに沸かせました。



三ヶ尻幼稚園のアトラクション「ソイヤ」
可愛くて迫力ある踊りに拍手喝采！

* 金ヶ崎町社会福祉大会長表彰 *

● 社会福祉事業功労者 16名【多年にわたり、社会福祉の増進に寄与し、社会福祉事業の推進に貢献した方】



さいとうただひろ 齊藤忠弘様
(民生委員・児童委員)



いとうこずえ 伊藤梢様
(特別養護老人ホーム友愛園 副主任介護員)



かんの マサエ 菅野マサエ様
(民生委員・児童委員)



おいかわひでかず 及川秀和様
(友愛園居宅支援事業所 所長補佐)



さとうつよし 佐藤侃様
(民生委員・児童委員)



おいかわしげこ 及川茂子様
(特別養護老人ホーム友愛園 業務係長)



あきさわちかこ 秋澤千賀子様
(民生委員・児童委員)



さかしたのりこ 坂下則子様
(特別養護老人ホーム友愛園 主任看護職員)



たかほしこ 高橋イク子様
(老人クラブ連合会前事務局長)



あんばい みゆき 安倍みゆき様
(交流ステーション友愛園 副主任介護員)



きくちこうりゅう 菊地弘龍様
(身体障害者福祉協会理事)



きくちあさみ 菊地麻美様
(たんぼぼ保育園保育士)



あん ばい かつら
安倍 桂 様
 (金ヶ崎福祉フロンティア
 介護予防施設西光荘 支配人代理兼事務局長)



みや もと うん ざん
宮本 運山 様
 (金ヶ崎町社会福祉協議会 介護福祉課長)



ひろ の たい こ
廣野 泰子 様
 (金ヶ崎福祉フロンティア
 介護予防施設西光荘 介護職員)



たか はし ふみ え
高橋 文恵 様
 (金ヶ崎町社会福祉協議会 介護支援専門員)

●**褒賞 (在宅介護者) 1名** 【多年にわたり、在宅要援護者の介護に携わってきた方】



たか はし せい こ
高橋 清子 様
 (在宅介護者)

●**感謝状 3組**

【社会福祉事業の推進のために多大な活動資金をお寄せいただいた個人及び団体】

ゆ かい
かみしも結いの会 様
 (福祉基金寄付)

えん どう ただ お
遠藤 忠雄 様
 (ワークステーションかねがさき指定寄付)

さき おう かい
崎 奥 会 様
 (福祉基金寄付)

*** 岩手県共同募金会長感謝状の伝達 * 1名**

【共同募金運動に多大な浄財をお寄せいただいた方】



み た あき お
三田 明夫 様
 (共同募金寄付)

第71回岩手県社会福祉大会

10月31日(水)岩手県民会館を会場に、第71回岩手県社会福祉大会が開催されました。

当町からは、以下の方々が受賞されました。

●**岩手県知事表彰**

【多年にわたり、民生委員児童委員として社会福祉事業の推進に貢献し、その功績が顕著な方】



うじ いえ ふじ こ
氏家 富士子 様
 (民生委員児童委員)

【多年にわたり、社会奉仕活動を行い、その功績が顕著な方】



さ とう く に こ
佐藤 恭仁子 様
 (配食サービスボランティア)

●**岩手県民生委員児童委員協議会長表彰**

【前年度11月30日において、民生委員・児童委員在任期間が通算7年に達した方】



ち だ はち ひこ
千田 八彦 様
 (民生委員児童委員)



すが わら まさ ひろ
菅原 正廣 様
 (民生委員児童委員)

* 福祉作文入賞者表彰 *

● 小学校低学年の部



* 最優秀賞

おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう

わた なべ ゆ ら
渡 邊 侑 良 さん (西小学校 2年)



* 優秀賞

ありがとう、おばあちゃん

きく ち り おん
菊 地 凛 穂 さん (第一小学校 2年)

● 小学校中学年の部



* 最優秀賞

ボランティアスクールで学んだこと

たか はし ま ゆ
高 橋 麻 憂 さん (第一小学校 4年)



* 優秀賞

ずっと元気で長生きしてください

さかき ふう か
榊 楓 華 さん (西小学校 4年)

● 小学校高学年の部



* 最優秀賞

温かい気持ちを伝えたい

さか い ひ より
坂 井 日 和 さん (西小学校 6年)



* 優秀賞

笑いは元気のタネ

わた なべ み き
渡 邊 美 樹 さん (第一小学校 6年)

● 中学校の部



* 最優秀賞

どちらも思いを持って

たか はし み つき
高 橋 美 月 さん (金ヶ崎中学校 3年)



* 優秀賞

手を取り合うことの大切さ

あり すみ な な
有 住 奈 々 さん (金ヶ崎中学校 3年)



* 審査員特別賞

一人の人間だから

まつ もと ゆう な
松 本 悠 奈 さん (金ヶ崎中学校 3年)

福祉作文最優秀作品

小学校低学年の部



おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう

西小学校2年 渡 邊 侑 良

わたしのおじいちゃんは、はたらきものです。お昼から夜の十二時まで牛しゃで牛のおせわをするしごとをしています。お昼ごろには、牛にえさをやったり、ふんのかたづけを何回もしたりしています。わたしが、しきりょうをまくのを手つだったら、「ありがとう。」と言ってくれて、心があたたかくなりました。わたしは、おじいちゃんのお手つだいをするのが、大好きです。

また、おじいちゃんは、わたしのしゅくだいも教えてくれます。まちがっているところを見つけると、やさしく、「まちがっているぞ。」と言ってくれます。

わたしのおばあちゃんも、はたらきものです。おかあさんと、はたけしごとをしたり、牛しゃで牛のおせわをしたりしています。

おばあちゃんが、牛にえさをあげるとき、わたしも手つだったら、「しごとがすすむよ。ありがとう。」と言ってくれました。もっともっと手つだいたくなりました。

はたけしごとでは、にんじんのたねまきのお手つだいをしました。うまくできなかったけれど、おばあちゃんがやり方を教えてくれました。うまくたねまきができるようになったら、おばあちゃんが「じょうずだね。」と言って、にっこりしてくれました。とてもうれしかったです。

そのほかにも、おばあちゃんは、小さいもうとのめんどうもみてくれます。おむつをきれいにかえたり、ミルクをあげたりしています。とってもとってもはたらきものです。

おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう！長生きしてほしいです。

小学校中学年の部



ボランティアスクールで学んだこと

第一小学校4年 高 橋 麻 憂

わたしは、六月十二日のボランティアスクールで、社会福祉協議会の方に教えていただきながら、白じょう体験や車いす体験をしました。

初めは、目が見えない体験をしました。友だちに介助してもらいながら、体育館から、二階の自分たちの教室に行ってもどってくるコースでした。

アイマスクで目かくしをすると、まっ暗でどこを歩いているか分からなくなって、とてもこわかったです。でも、いっしょに歩いてくれたれなちゃんが、手をかしてくれて、「だいじょうぶだよ。がんばれ。」と、やさしく声をかけてくれたので、何とか歩くことができました。れなちゃんの言葉がとてもうれしかったです。わたしが介助する時も、少しでも不安が少なくなるように、早めにぶつかりそうなところを教えたり、手で支えてあげたりしました。

二つ目の車いす体験は、体験する前は、車いすに乗ったら楽かなと思っていましたが、実際に乗ってみたら、坂を上ったり、下りたりするところは、少しこわくてドキドキしました。介助する時は、乗っている人がこわさを感じないように、坂を下る時は、後ろ向きでやることを教えていただきましたが、思うように車いすが動かず、とてもむずかしかったです。乗っている人が、こわくないように考えて車いすを押したいと思いました。

車いす体験をした後に、お店で車いすを押している方を見かけました。車いすに乗っている方といっしょに買い物をして、たくさんのもつを持っていました。わたしは、その方たちが、気になって様子をみていると、車いすに乗っている方は、押している方に、「ありがとう。」というふうにおじぎをして、それにこたえて「どういたしまして。」という表情をしていました。わたしは二人とも心が通じているんだなあと思い、自分が車いす体験をした時のことを思い出しました。

今回のボランティアスクールでは、相手の気持ちを考えて介助することが大事だということを学びました。目が見えない方や足の不自由な方のたいへんさは、そうぞうするよりも、もっともっとたいへんなことがたくさんあると思いますが、何か自分が役に立つことがあれば、やっていきたいと思えます。

九月十九日には、二回目のボランティアスクールで点字体験をします。点字は、「人々の心を結ぶ便利な道具」ということを、国語の時間に勉強しました。そんな点字を読んだり書いたりする体験をするのが、今からとても楽しみです。

小学校高学年の部



温かい気持ちを伝えたい

西小学校6年 坂井日和

私は、今はいないひっこばあちゃんに、もうしわけないという気持ちでいっぱいでした。私がお兄ちゃんとけんかばかりしていたので、「兄ちゃんとながよぐするんだよ。」「部屋をかたづけんだよ。」そんなことを言われ、私は「うるさい！」ひどい言葉で、口ごたえばかりしていました。そんな言葉を返しても、いつも元気に声をかけてくれたからです。

でも、ひっこばあちゃんの腰が悪くなってしまうと、あっと言う間に動けなくなって、デイサービスの皆さんのお世話になるようになってしまいました。私は、すぐに治ってくれると信じていましたが、ひっこばあちゃんは、どんどん体調が悪くなっていきました。

そんなある日、学校であるプリントが配られました。高齢者のおうちをきれいにするボランティアの募集でした。その時は、行きたくないとは思いませんでした。ひっこばあちゃんの体調が悪いのに、何もしてあげられないことがくやしくて、何か人の役に立つようなことをしたかったからです。

学校に行くと、仲良しの友達に、「おそうじのボランティアに行く？」と質問されました。友達といっしょなら頑張れる、そう思った私は、友達といっしょに参加することに決めました。

実際におそうじボランティアに行ってみると、中学生のお兄さん、お姉さんを含めて十人くらいいました。私のやる気がふくらんできた時、担当の地区センターの方から、「おばあさんの家です。おばあさんの気持ちを想像しながら、勝手に物を動かすことがないように気を付けてください。」という注意がありました。私は、あぶなく自分勝手なボランティアをするところでした。おばあさんの気持ちを考えないでそうじをしていたら、それは迷惑になっていたはずです。私は、とても大切なことを学びました。

おうちは、一人暮らしのおばあさんの家なのに、とても整頓されていました。だから、私と友達は外に出て、窓みがきをすることにしました。予想通り、窓みがきはやりがいがありました。

一時間くらいがんばると、窓はとてもきれいになりました。そうじが終わり、一つの部屋にみんなで集まりました。中学生のみなさんも私たち小学生も、笑顔が汗で光っていました。そこへおばあさんが、とてもうれしそうな顔で入ってきました。する方もされる方も笑顔になれるボランティアのすばらしさを初めて感じました。

私のひっこばあちゃんは、寝たきりになったまま、昨年亡くなりました。ひっこばあちゃんに温かい気持ちを伝えることができなくなって、本当にくやしいです。でも、ひっこばあちゃんに伝えられなかった温かい気持ちを、これからボランティアで様々な人に伝えていきたいと思っています。

中学校の部



どちらも思いを持って

金ケ崎中学校3年 高橋美月

福祉という言葉は、テレビや新聞でもよく出てくるので、分かっているつもりではあった。しかし、いざどのような活動なのかと考えると、よく理解していなかった。自分や家族、人のために何かをするということなのは分かるが、では誰のためなのかというところがはっきりしていない。

そんな私だが、この夏休み中にとある活動を行うことになった。それは、保育体験である。保育体験は、友達から誘われたものなので、自分からこの活動に関わろうとしたわけではなかった。

先日、保育体験の説明会があった。その中で、園児の目線に合わせるということを言われた。気持ちの面だけでなく、実際にしゃがむなどして目線を合わせる事が大切なのだ。その理由は、前に家庭科の時間に教わった。園児からすると、中学生はとても大きく見えるため、そのまま接すると、園児に怖いという印象を与えてしまう恐れがあるからだそうだ。園児によりそうために大事なことなのだとそのとき感じた。

この説明会で、それに加えて、もし、園児に変なことや嫌だなと思うことを言われたときは、そのときどう思ったかをしっかり園児に伝えてほしいと言われた。

確かに、子供は思ったことを遠慮なく言い、傷つける言葉を言うってしまうこともあるのかもしれない。子供の言ったことと思っても、面と向かって言われたら、私も傷つくかもしれない。

福祉という言葉を知ると、何かをしてあげる活動で、してもらった人が喜んでくれれば良いと思ってしまいがちだが、本当にそうだろうか。する側が何かを我慢したり、不満に感じていたりしたのなら、本当に良い活動にはなっていないのかもしれない。

保育体験であれば、子供と関わったことで、たくさん嬉しい気持ちや楽しさを感じられるはずだし、そこに不満や嫌な気持ちはない方が良い。それを感じて、どうすればそれを無くすことができるのか考えることは、自分だけでなく、これから活動に関わる人達がよりよく行っていくためにも大切なことだ。

そうして、する側、される側が、お互いに気持ち良くなれたとき、良い福祉活動を行ったと言えるのかもしれない。

私はこの夏に、もう一つボランティアを行う。それは、デイサービスでの演奏である。これは、今まで三年生が毎年行っている活動なので、私が積極的にやろうと思っていたものではない。けれど、せっかくやるなら、聞いてくれる人達が嬉しい気持ちになるだけではなく、演奏した自分も、嬉しいという気持ちになれば良い。福祉活動に取り組むとき、自分も何かを得られるよう、考えていきたい。

1 赤十字奉仕団ふれあい交流会

トピックス

10月24日、金ヶ崎町赤十字奉仕団主催による「ふれあい交流会」が開催され、金ヶ崎町さくらの会の会員と、陸前高田県営柝ヶ沢アパートの方々が交流を深めました。

みどりの郷で行われた懇親会では、久しぶりに再会する友人との会話を笑顔で楽しむ姿もありました。

会の終盤では、陸前高田市の夏の風物詩「チャオチャオ踊り」を踊り、両団体が一体となり盛り上がりました。



東日本大震災被災地の復興継続を念頭に、人とのつながりを育むことを目的として開催されるふれあい交流会は、今年度で継続5年目となりました。

金ヶ崎町からは、町内に避難された方々で結成された「さくらの会」の会員10名が参加し「これからもこのつながりを大事にしていきたい」と話していました。

2 北部学童 郷土カルタ指南会

トピックス

10月22日(月) 北部自治会連合会による郷土カルタ指南会が北部学童保育所で開催されました。郷土カルタは、子どもたちの愛郷心を育もうと2008年に作成されました。絵札は当時の小学生がてがけ、町内各自治体の「宝」が色とりどりに描かれています。

参加した児童たちはカルタ取りに熱中し、勢い余ってお手付きをしたり、カルタの取り合いになったりもしていました。カルタを取る際の児童たちの「はい!!」という大きな声が響き渡り、たいへん盛り上がった指南会になりました。



金ヶ崎町の特徴が盛り込まれた絵札



カルタを睨む児童たちの眼差しはまさに真剣そのもの



ジャッジをするのも なかなか大変…。



カルタ取りに夢中で身を乗り出す児童たち

寄付の報告

平成30年9月1日から11月26日までの受付分



○福祉基金

高橋 克明 さま	10,000 円
小関 公夫 さま	30,000 円
阿部 ケサ子 さま	30,000 円
菅原 和郎 さま	20,000 円
阿部 和郎 さま	30,000 円
齊藤 幸子 さま	30,000 円
佐藤 淳一 さま	200,000 円
高橋 健一 さま	30,000 円

○物品寄付

- カネマン金ケ崎 さま 〈金ケ崎学童へ〉
* コミック 204 冊・お菓子 ダンボール 3 箱
- 匿名 さま 〈社協(ワーク)へ〉
* セーター等 11 着・ダウンジャケット等 4 着
- 高橋 文恵 さま *チャイルドシート 1台
- (株)東北アルフレッサ さま *車イス 3台
- 「小さな親切」運動岩手県本部 さま
*車イス 1台



▲ (株)東北アルフレッサ様



▲ 「小さな親切」運動岩手県本部 様
「小さな親切」運動岩手県本部による車椅子寄贈式にて

寄贈いただいた車椅子は、町民のみなさまへの貸し出しをとおして福祉の推進に活用いたします。大変ありがとうございました。

自動車や製造工場に興味のある方

募集中!

Xmas シニア工場見学バスツアー開催

～外出支援・介護予防事業～

町内立地企業の協力のもと工場見学と介護予防を融合した高齢者の工場見学バスツアーを実施します。健康づくりをしながら、参加者同士での交流や工場見学ができる内容となっておりますので、ぜひこの機会にご参加ください。

- 日時 平成30年12月25日(火) 11:00～14:00
- 場所 トヨタ自動車東日本株式会社岩手工場 (※ご自宅周辺から送迎します。)
- 内容 ① 健康チェック ② 昼食・交流 ③ 工場見学
- 対象者 金ケ崎町内にお住まいで、おおむね65歳以上の高齢者
- 費用 ・参加費…無料
・昼食代…工場内の食堂で弁当(500円)実費負担となります。



- 定員 20名 (定員になり次第締め切ります。団体の申込不可。定員を超えた場合は、抽選の上決定いたします。)
- 主催・お申込み・お問合せ先

社会福祉法人金ケ崎町社会福祉協議会
TEL: 0197-44-6060

※12月18日(火)までに直接または電話でお申込み下さい。(担当:鈴木知里/高橋摩悠莉)

バスの送迎時間は、申込み締め切り後にご連絡致します。

《講座の流れ》

9:30～10:50 バスで送迎 ※ご自宅周辺で乗車	11:00～11:30 トヨタ自動車 健康チェック	11:40～12:20 トヨタ自動車 社員食堂で 昼食・休憩	12:30～14:00 トヨタ自動車 工場内を見学	14:10～15:30 バスで送迎 ※ご自宅周辺で降車
----------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	-----------------------------------

社会福祉法人 金ケ崎町社会福祉協議会

☎029-4503

金ケ崎町西根南羽沢43 町福祉センター内

TEL: 0197-44-6060 FAX: 0197-44-6106

EX-ル: kinshaky@seagreen.ocn.ne.jp

ホームページ: http://www7.ocn.ne.jp/~kinshaky/

★この広報誌は、共同募金配分金の一部をあてて発行しています

